

役に立つ補聴器のお話



山陰労災病院

耳鼻咽喉科 杉原三郎

(平成25年8月29日健康講話)



1

難聴（聴こえが悪い）

- 治療で治るもの（疾患）
- 治療で治らないもの（疾患）
- 加齢に伴うもの

2

加齢による難聴の特徴

- 小さい音が聴こえない
- しかし、ちょっと大きな音は
やかましく感じる
- 音はわかるが、内容がわからない
(早口、ぼそぼそしゃべる人)

3

- 家庭での会話の輪に入れない
- テレビの音が大きいと言われる
- 会合での内容がわからない
- いいかげんな返事をしてしまう
- 電話が聞き取れない
- 呼んでも返事がないと怒られる
- 聴きまちがえて大失敗をした
- 聴こえないから無視される

4

補聴器を思いついたら

なにはともあれ **まず**
耳鼻咽喉科で
耳の診察と聴力検査を

- 重大な病気がみつかるとかも
- どういう難聴かがわかる

5

補聴器はいつつける？

- 自分の欲求によって装着を決心
しないと使用できない
- 欲しい時が、つける時である
- 周囲が困るからという理由で、
つけた（つけさせられた）場合
はうまくいかない

6

雑音が入る？

- 👉 器械の雑音は、ありません
- 👉 聴こえるのは、あなたが今までずっと聴き逃していた「身の回りの音」なのです
- 👉 我々の耳（脳）は「身の回りの音」の中から聴きたい音を選び出しています

7

補聴器をつける決意

- 👉 我々の耳（脳）は「身の回りの音」の中から聴きたい音を選び出しているため、補聴器をつける練習が必要
- 👉 音質や聴こえ方の微調整や慣れ

8

補聴器を合わせるとは？

- 👉 その人の難聴の程度、型に合わせて、補聴器の特性を決めること
- 👉 聴こえにくい周波数の音を大きく
- 👉 しかも、大きな音が不快にならないように調節すること
- 👉 会話が少しでも聴きやすいように、微調整すること

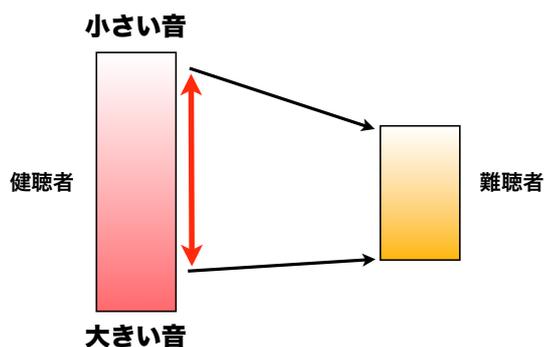
9

補聴器と眼鏡

補聴器と義歯

10

補聴器の仕事



11

まとめ

- 👉 もっと良く聴きたいと思ったときに補聴器を考える時
- 👉 補聴器は魔法の器械ではない、限界もある、練習も必要
- 👉 それぞれに特性を合わせ、微調整が必要なので補聴器専門店で購入
- 👉 なによりもまず、耳鼻咽喉科診察を
- 👉 生き甲斐とほけ防止、生活の質向上

12